

# 子ども司書養成講座の取り組み

丹波市教育部社会教育・文化財課

丹波市立図書館 高見弘子

2024年2月24日(土)

## 「子ども司書養成講座」の目的

地域や学校で、読書の楽しさを伝える『子ども読書推進リーダー』の育成を目的に、平成25年度から始めました。

小学4年生～6年生を対象に、受講生を募集しています。

定員は10名です。

子ども司書認定後は、図書館や地域の読み聞かせ活動に参加したり、学校での読書推進活動を行ったりするなどの活躍が期待されています。

令和5年度で11年目となり、認定者は110名となっています

# 子ども司書の認定者数

年度	応募者数	受講者数	認定者数
H25	10	10	10
H26	13	13	13
H27	11	11	11
H28	12	10	10
H29	12	10	9
H30	12	10	9
R1	15	10	10
R2	9	9	9
R3	10	10	10
R4	17	10	10
R5	9	9	9
小計	130	112	110

# カリキュラム

	内 容
第1回	「本の成り立ち・図書館の役割について」
第2回	「資料の種類・分類・装備について」
第3回	「レファレンス業務の体験」
第4回	「おすすめ本の紹介について」
第5回	「カウンター体験(窓口業務、貸出・返却の実習)」
第6回	「読み聞かせ、おはなし会について」
第7回	「受講生によるおはなし会、認定証授与式」

# 第1回 「本の成り立ち・図書館の役割について」

<講座内容>

●開講式・オリエンテーション

●講義

①本の成り立ち

～本はどのように生まれたか～

②図書館の役割について

③丹波市立図書館について

④中央図書館ってどんなところ？

# 第1回 「本の成り立ち・図書館の役割について」

## <受講生の様子>

開講式では、1人ずつ自己紹介。

みんな自分の名前や応募した理由をしっかりと発表できました。

その後、特製エプロン(ちーたんのワッペン付き)と名札を館長から受け取り、早速身につけました。

いよいよ講義の始まりです。最初に、木簡→巻物→本へと形をかえてきた本の成り立ちについて、次に、図書館の役わりや市内6つの図書館にある本の冊数、利用者数について学びました。その後、図書館クイズにも挑戦しました！！最後に、中央図書館内を見学し、本の除菌機を体験したり、普段は見られない閉架書庫や返却ポストの裏側にみんな興味津々でした。

## 第2回 「資料の種類・分類・装備について」

<講座内容>

- 資料の種類
- 資料の分類
- 書架見学
- 本の装備

## 第2回 「資料の種類・分類・装備について」

### <受講生の様子>

今回の講義は、「資料の種類・分類・装備について」です。図書を内容によって分類する日本十進分類法(NDC)、本の住所を示す背ラベルの色、請求記号の説明、どれもむずかしい内容でしたが、みんな一生懸命聞いていました。

「分類」については、食べ物カードを“野菜”“魚”“お菓子”…と仲間ごとに「分ける」ことを行いました。そして、それと同じように図書館の本も同じ種類の本が同じ場所に集まるように工夫してあることを学びました。その後、書架を見学し、実際に本が分類され並んでいることを確認しました。

最後に、本の装備に挑戦です。装備とは、本が傷まないように、専用の透明フィルムでコーティングすることです。分類番号を自分で調べてから本の背ラベルを作り、その後、大きなハサミや幅の広い定規を使って、慎重にフィルムを貼っていきます。装備が完成した時、「できた！！」と達成感に満ちたうれしそうな表情の子どもたちでした。



# 第3回 「レファレンス業務の体験」

<講座内容>

- レファレンスとは
- 練習問題
- レファレンス実習

## 第3回 「レファレンス業務の体験」

### < 受講生の様子 >

聞きなれない「レファレンス業務」。講座の前半では、相談を受ける立場で、利用者の方の調べもののお手伝いを練習してみました。説明を聞いて、いざ自分でやってみると、思ったよりもむずかしかったかもしれません。でも、解決する喜びを味わえる体験だったのではないかと思います。

後半の実習では、調査相談の内容がどの分野の資料に書いてあるのかをグループで考え、予想を立てました。その後、実際に書架へ行って、問題に関係がありそうな本を探しました。

前回教わった日本十進分類法(NDC)で、「だいたいこの辺の書架にあるはず・・・」という見当をつけられても、その本に知りたいことが書いてあるかどうかは、自分で内容を確認してみないとわかりません。「これには書いてないな・・・」

「違う本、見てみよう！」と、試行錯誤を重ねて、回答にたどりつくようがんばっていました。最後は、調べた内容をみんなの前で発表！ちょっと緊張したかな！？前回の講座の経験・知識を土台にして、今回の課題をクリアした受講生のみなさん。1歩ずつ司書に近づいていますね！

## 第4回 「おすすめ本の紹介について」

### <講座内容>

- おすすめ本を紹介する方法
- ブックトークってなに？
- おすすめの本の選び方
- ポップ作り(実習)

## 第4回 「おすすめ本の紹介について」

### <受講生の様子>

自分が読んで「いいな」と思った本を『おもしろい』という言葉は使わずに大勢の人にわかりやすく紹介するのは、意外とむずかしいものです。

本を紹介する方法は、1つだけではありません。ブックリストや広報紙、ホームページや展示コーナー、ブックトークなど、利用者に興味を持ってもらえるように、わかりやすく工夫した紹介の方法が多くあることがわかりました。

今日挑戦したポップ作りは、本の内容やおもしろさを伝える小さな広告のようなものです。ポップを見て、「この本、読んでみたい！続きが気になる！」と思わせたら大成功です。

完成したポップは、講座修了後、市内各図書館で巡回展示します。

みんなのポップが並ぶのが、楽しみです！

## 第5回 「カウンター体験(窓口業務、貸出・返却の実習)」

<講座内容>

●カウンター体験

\*貸出・返却処理

\*返却された本を書架へ戻す

\*予約の入った本の処理 など

## 第5回 「カウンター体験(窓口業務、貸出・返却の実習)」

### <受講生の様子>

いよいよ、カウンター体験の日がやってきました！！受講生は市内各図書館に分かれ、カウンター業務に挑戦しました。まずは、職員から図書館システムを使った貸出・返却のやり方や注意事項の説明を受け、少し練習をしてからいよいよ本番です。

いざ利用者を前にすると緊張した様子でしたが、貸出・返却ともにすぐに手際よくできるようになりました。利用者カードの更新を行ったり、予約が入った本を書架へ探しに行ったり、返却された本を書架へ戻しに行ったり、貸出・返却以外にも色々な仕事を体験しました。

2時間の体験はあっという間に過ぎましたが、だんだん自信がついてきて、後半には頼もしい笑顔が見られた受講生のみなさんでした。

## 第6回 「読み聞かせ、おはなし会について」

<講座内容>

- 絵本のえらび方
- 読み聞かせをするときの注意点
- 読み聞かせの実例
- 読み聞かせの練習
- おはなし会のリハーサル

## 第6回 「読み聞かせ、おはなし会について」

### <受講生の様子>

読み聞かせは一度体験してみなければ、そのむずかしさはわかりません。今回は受講生全員が読み聞かせをすることが初めて。最初に、「どの絵本にするのか？選ぶポイントは？」について講義を聞きました。

次に、絵本を選んだらグループに分かれ、講師からのアドバイスをもとに、読む練習を繰り返しました。緊張してうまく絵本が持てなかったり、スムーズにページをめくれなかったり……。たくさんの人に絵本が見やすいように読み聞かせをするのは大変です。「むずかしいなあ」と言いながら、仲間が練習している姿も参考にして、みんな一生懸命に頑張りました。

最後にリハーサル。本番さながらに読んでみましたが、実力発揮！！

上手に読むことができました。最終回のおはなし会が待ち遠しいです。



## 第7回 「受講生によるおはなし会、認定証授与式」

<講座内容>

- 自分が作ったポップと記念撮影
- 受講生によるおはなし会
- 館長による講評
- 子ども司書認定証授与式

## 第7回 「受講生によるおはなし会、認定証授与式」

<受講生の様子>

6月に始まった「子ども司書養成講座」は、最終回を迎えました。

まず、初めに、自分が作ったポップとおすすめ本を持って記念写真を撮りました。

その後、いよいよ「受講生によるおはなし会」のスタートです。順番に1冊ずつ絵本の読み聞かせに挑戦します。前回の講座で、絵本の持ち方、声の出し方、読む速さについて講師からアドバイスを受け、自宅でも練習を重ねて今日を迎えてくれたのではないのでしょうか。みんな堂々と読み聞かせを行い、おはなし会は大成功！！子ども司書認定基準をすべて満たすことができました。

最後に、館長から講評をいただき、子ども司書認定証を授与し、受講生9名全員を丹波市子ども司書として認定しました。

今後、周りの人たちに読書の楽しさを伝えてくれることを期待しています。

# 今後に向けた課題

## ①子ども司書の活躍の場づくり

子ども司書認定者は各図書館のおはなし会に参加していますが、地域など活躍の場を広げていく必要がある。

## ②学校や学校図書館との連携づくり

学校の図書委員会活動での活躍等、学校との連携が必要。

## ③中学生・高校生になってからの継続的な関わりづくり

小学校卒業後、活動が減るので、子ども司書認定者が一堂に集えるイベントを開催するなど、活動を継続・再開するきっかけ作りが必要。

ありがとうございました。

丹波市教育部社会教育・文化財課

丹波市立図書館 高見弘子